行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標4 ひとと環境にやさしい安全で快適なまち

基本施策2 自然と調和した安全で快適な都市の形成

施策28 公共交通

基本方針

市民生活の利便性を向上し、だれもが安全で自由に行動できる公共交通の充実を図ります。

2 指標(長期総合計画日標指標)

۰.								
	指標名 現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
	指標1 コミュニティバスはむらんの 年間乗車人数	120,958 人 22年 度)	152,768 人	154,956 人	167,585 人	181,626 人	186,918 人	130,000 人

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

平成28年度実施結果 評価(所管課長) #										
			平成2		指標に係る					
1	Vо	事業名	決算/円	予算執 行率	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	方向性	重点事務事 業
		コミュニティバスはむらん運行 の充実	57,005,685	99.6%	計画どおり 完了	0	0	0	Α	*
	2	鉄道利用サービス向上の要請	33,000	100.0%	計画どおり 完了	0	0	0	A	
	3	多摩都市モノレール整備促進 の要請	30,000	100.0%	計画どおり 完了	0	0	0	A	

4 施策評価

①施策の評価

だれもが安全で自由に行動できるためには、鉄道などの公共交通網の充実が必要であることから、中央線、青梅線および五日市線などの輸送力増強の改善に向け、西多摩地域広域行政圏協議会、三鷹・立川間立体化複々線促進協議会を通じて、東日本旅客鉄道株式会社への要請活動を行った。また、多摩都市モノレールについても、市にとって重要な役割を果たす都市計画事業であることから、多摩都市モノレール株式会社に対して、多摩地域都市モノレール等建設促進協議会を通じて要請活動を行い、広域交通網の充実に向けて取り組んだ。

コミュニティバスはむらんについては、運行目的である「交通不便地域の解消」「運転免許を持たない高齢者等の移動手段の確保」などに向けて事業を展開した結果、はむらん利用者に対して利用しやすい環境を整備し、利便性の向上を図ることができた。平成28年度のはむらん年間乗車人数は目標値 130,000人を大幅に超える 186,918人を達成した。

②今後の方向性(改善への取組み等)

鉄道、モノレール等、広域交通網については、構成自治体で連携して、引き続き輸送力増強と利便性の向上を図るため関係機関に対する要望活動に取り組んでいく。

コミュニティバスはむらんについては、運営推進懇談会の意見を伺いながら、更なる効率性・利便性の向上に向けて取り組んでいく。

	基本シート】										
1.基本項目				部署		都市	ī建設 ·	部			都市計画課
-	事業名		開始	ì年度	実施	期間	事業科		運営		進行管理
1 コミュニティバスは	むらん運行の	充実	平成	17 年	継続		自治事 独自)		施行者。 助·助成		
01				年							
02				 年				·†			
03				年							
04				年				+			
05				 年				+			
 関連課											
	と環境にやさしい	安全で快適なる	まち 施策	区分	28	公	 洪交道	<u> </u>	事業	番号	3
2.事業の概要								<u> </u>			
事 市民生活の利											
業 発電した電気で 内 容	を活用し、電	気バスは	むらんを	運行す	ること	でスマ	ート交	通シス	ステムを	を構築	していきま
根拠法令											
条例		`~ \E/	- - * ** 1.*	ᄘᄼᆓ	. Am						
要綱等 羽村i 3.成果指標	市コミュニティ	イバス連行	丁事業補.	助金要	-						
成年問垂車人数	平成29年	度16万人									
果											
標											
4.活動指標							ᆎᆮ	上面			
Plan【計画】	平成27年度	度(現況)	平成	28年月	*************************************		3か年記 で成29年			平成	30年度
	懇談会の開催	3回	同左 3回	V 1 7.		同左 3		· ~	同左	3回	1 /2
	委員の改選					委員ので					
	任期2年					任期2年	_				
事業内容	はむらん運行10 事業)周年記念	ICカードシス	ステム導力	└・ 運用						
事業量等											
C 机 1 比描/式田	の海は 取れ	(注動士)	Z +- 14.1-1	九1十	2 次汇	!	工 /-+	· ナ T \			
5.投入指標(成果 ①人件費 【事務	の達成、及(執行に要す							「不」)			
		平成27年			式28年			【29年	度	平原	以30年度
職層∙職種	里別	人数 概	項時間	人数	概算	時間	人数	概算	時間	人数	概算時間
係長職		1人	240 H	1人		240 H	1人		10 H	1人	240 H
(主事·主任職) (2)総事業費		1人	960 H	1人] 9	60 H	1人	96	60 H	1人	960 H
事業費の内訳(単位:千円)	平成27年	度(現況)	平月	或28年	度	平原	戈29年	度	平原	划30年度
事業費			55,594		5	57,208			6,398		56,398
人件費(係長晴			1,210			1,194			1,194		1,194
人件費(主任·) 総事業費(合計)	土争職)		3,455 60,259		-	3,264 31,666			3,264),856		3,264 60,856
国庫支出金			00,239			000,000		00	0,000		00,830
都支出金			0			0			0		0
受益者負担額			0			0			0		0
その他特定財源		0			0			0		0	
一般会計繰入金			0			0			0		0
起債	+ 進入+ハ		0 050			0			0		0 050
一般財源(人作)財源内訳(合計)	+貫言む)		60,259 60,259			31,666 31,666			0,856 0,856		60,856 60,856
③コスト計算		<u> </u>	00,208		•	,1,000		00	,,000		00,000
ア市民	56,281 人	における	1人あたり	りのコス	ストは、			1.09	96円		
イ対象者	180000 人		-						43 円		
ウ成果物		出来高		·	- · ·	<u> </u>	のコ	コストに			円

イ 対象者 ウ 成果物 ※ 対象者:

平成28年度 【事後評価】

Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果) レ計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 「選延 中断 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか) ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。 コミュニティバスはむらん運営推進懇談会の意見等をいただき、はむらんの収入増にむけた取り組み、									
バス停ベンチの整備、 また、利便性向上によ 表)を作成するサービ	、利便性の よる利用者	D向上、採算性 対増を図るため	in 自上などについ	ハて、協	議を行っ	た。			
②投入実績 決算の内訳(単位:P	<u> </u>	文符紹/业加\		文符奶	(旦级)	油色岩	古 【	劫纪兹	
スタの内訳(単位:F 事業費	1)	予算額(当初)	補正•流用額	予算額		<u> </u>		執行率	
 		57,208,000		37	,208,000	37,00	5,685	99.6%	
7.成未和未 ①活動、投入実績かり。 1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	ら生じた成	え果(物)							
前年度(今			今年	度(どう	いう状態	になったか	')		
利用者の利便性の向]上と利用:	者の促進に	利用者の利便性	の向上の	のため、2	か所のバ	ス停に	ベンチ	
向けて、西多摩衛生組	組合と調整	怪し、「フレッ	を設置した。						
シュランド西多摩」バス	ス停へのイ	ベンチ・上屋	また、産業祭・さく	らまつり	川において	て利用促進	のPR	を行っ	
を設置するとともに、	利用促進的	に向けて、PR	た。						
及び利用者への感謝	を込めて	、はむらん運							
行10周年記念事業を	実施した。								
②4.活動指標のPlan【	【計画】にお	おいて、日標値	 を数値化している	場合					
	(者(物)	OU CY LINIE	本年度:目標		Ī	本年月	度:実統	責値	
在問垂声人数 H28年度目標 1.8					2010 [
	N-713A		13万人		⇒	180	5,918人		
			13万人		⇒	180	0,918,		
Check【評価】	N-713A			が、今征					
Check【評価】 8.評価		見する視点)	◎・・・適切である○・・・適切なもの	が、今征	としまり効	果的に改			
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、	課題を発	見する視点) Iのポイント		が、今後、 、今後、	としまり効	果的に改 必要なもの	善する		
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、 項目 ┃	課題を発 評価	5のポイント	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・・課題があり	が、今後 、 <u>今後、</u>	後、より効 改善が必 頁目の着!	果的に改必要なもの限点	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、 項目 妥 ^② ·上位施策(基本	課題を発 評価 に目標・施覧	近のポイント 策)を達成する	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業か	が、今後、 、今後、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	と、より効 改善が必 項目の着 な系に結び	果的に改 必要なもの 眼点 ゾつくか、	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥(必) ・上位施策(基本 ・今の社会情勢 性性・利用者・対象	課題を発 評価 に目標・施設	面のポイント 策)を達成する。 事業内容となっ	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業かっているか	が、今後、 、今後、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	と、より効 改善が必 項目の着 な系に結び	果的に改必要なもの限点	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥(必) ・上位施策(基本 ・今の社会情勢 性性・利用者・対象	課題を発 評価 S目標・施設 SIC見合う 者のニーフ	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ ((需要)はある	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、今後、 、今後、 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ の ・ ・ の も の も の も の も の の も の も の も の も の も の も の も の も の も の も の の も の も の も の も の の の の の の の の の の の の の	果的に改 必要なもの 眼点 びつくか、 よあるか	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥(必) ・上位施策(基本 ・今の社会情勢 性性・利用者・対象	課題を発 評価 S目標・施設 SIC見合う 者のニーフ	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ ((需要)はある	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業かっているか	が、今後、	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果的に改 必要なもの 眼点 がつくか、 よあるか 、最少の	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥(必) ・上位施策(基本 ・今の社会情勢 性性・利用者・対象	課題を発 評価 S目標・施設 SIC見合う 者のニーフ	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ ((需要)はある	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、今後、現をののである。	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果的に改 必要なもの 眼点 ゾつくか、 よあるか 、 表が 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥。 ・上位施策(基本・今の社会情勢・利用者・対象を対し、・活動手法を見る。)	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニーク 直し、人件	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となぐ(需要)はある ・費・事業費のi	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、 今	を、より効 改善が必 東目の着 本系に結び な要性に で事力いるか であった。	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利用者・対象を対し、手法・方の目標が	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニーク 直し、人件	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となぐ(需要)はある ・費・事業費のi	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、 今	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利用者・対象を対し、手法・方の目標が	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニーク 直し、人件	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となぐ(需要)はある ・費・事業費のi	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、 今	を、より効 改善が過 を必要をおかい を を で が が が が が が が が が さ で さ で さ で さ で で で る で る で る で る で る で	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	もの	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 妥当性(公事性)(手法)(手法)(手法)(可用者・対象を見) ・・事業の目標が対象性(の対象を見)	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニース 直し、人件	版のポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある。 ・費・事業費の でいるか	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、 今 施事 成経行 成 策業 果費さ 果 すれ ス	を、より効 改善が過 を必要をおかい を を で が が が が が が が が が さ で さ で さ で さ で で で る で る で る で る で る で	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	もの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利用者・対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニース 直し、人件	師のポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある ・費・事業費の でいるか	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるかるか削減余地はないか	が、 今 施事 成経行 成 策業 果費さ 果 すれ ス	を、より効 改善が過 を必要をおかい を を で が が が が が が が が が さ で さ で さ で さ で で で る で る で る で る で る で	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する 課長 (もの 全評価 つ	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利用者・対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	課題を発 評価 を目標・施設 に見合う 者のニース 直し、人件	師のポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある ・費・事業費の でいるか	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業がっているかるか	が、 今 施事 成経行 成 策業 果費さ 果 すれ ス	を、より効 改善が過 を必要をおかい を を で が が が が が が が が が さ で さ で さ で さ で で で る で る で る で る で る で	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	きの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 字の社会情報) ・上位施策(基本等・今の社会情報) ・活動手法を見ずる。 ・ 事業の目標が対象性 ②事業評価(今後の方	課題を発 評価な目標・施設で見合うる 者のニース直し、人件 で達成されて	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ で(需要)はある ・費・事業費の でいるか のいての視点) 高 〔妥賞	◎・・・適切である○・・・適切なもの△・・・課題があり為に必要な事業かっているかるか割減余地はないが当性・有効性〕	が、 今 施事 成経行 成い 今 後 策業 果費さ 果る	後、より 対 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	もの 全評価 つ	
Check(評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本・今の社会情勢・利用者・対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	課題を発 評価は は目標・施設に見合う 者のニーク 直し、人件 を対する	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある。 ・費・事業費のi でいるか のいての視点) 高〔妥賞	◎・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているかるか 削減余地はないか 当性・有効性〕 事業を進めること	が、 今後 策業 果費さ 果る は、 スト	後、より 対 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	きの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本) ・上位施策(基本) ・利用者・対象を見・利用者・対象を見・利用者・対象を見・・事業の目標がである。 (今後の方向性】 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本	課題を発 評価 は目標・施設に見合う。 者の二一ク 直し、人件 で達成され	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ で(需要)はある 費・事業費の でいるか のいての視点) 「高〔妥当 人計画どおりに より効果的に	◎・・・適切である ○・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているか るか 削減余地はないか 当性・有効性〕 二事業を進めること こ改善して進めること	が、 今後 策業 果費さ 果る は、 スト	後、 な すり が が が が に要と さでる 果 高 高	果的に改 必要なもの があ 最が が表 が表 れて	善する	きの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利動手法を見ずる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課題を発 評価を発 に見信のニーク 者面し、人件 がき 方向性につめます。 のででは、	師のポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある。 ・費・事業費の でいるか のいての視点) 「高」でおりにより効果的により効果的に 実施主体の見	◎・・・適切である ○・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているかるか 削減余地はないか 当性・有効性〕 こ改善して進めるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではないか	が、 今後 策業 果費さ 果る は、 スト	後、 な すり が が が が に要と さでる 果 高 高	果的に改います。最近では、またのでは、最近では、またが、は、最少の、務が執い。	善する	きの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利動手法を見ずる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課題を発 評価を発 に見信のニーク 者面し、人件 がき 方向性につめます。 のででは、	iのポイント 策)を達成する。 事業内容となっ で(需要)はある 費・事業費の でいるか のいての視点) 「高〔妥当 人計画どおりに より効果的に	◎・・・適切である ○・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているかるか 削減余地はないか 当性・有効性〕 こ改善して進めるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではないか	が、 今後 策業 果費さ 果る は、 スト	後、 な すり が が が が に要と さでる 果 高 高	果的に改 必要なもの があ 最が が表 が表 れて	善する	きの	
Check (評価) 8.評価 ①事業評価(改善等、項目 ・上位施策(基本)・今の社会情勢・利動手法を見ずる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課題を発 評価を発 に見信のニーク 者面し、人件 がき 方向性につめます。 のででは、	師のポイント 策)を達成する。 事業内容となって(需要)はある。 ・費・事業費の でいるか のいての視点) 「高」でおりにより効果的により効果的に 実施主体の見	◎・・・適切である ○・・・適切である ○・・・適切なもの △・・・課題があり 為に必要な事業かっているかるか 削減余地はないか 当性・有効性〕 こ改善して進めるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではあるここではないか	が、 今後 策業 果費さ 果る は、 スト	後、 な すり が が が が に要と さでる 果 高 高	果的に改 必要なもの があ 最が が表 が表 れて	善する	きの	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

今後も、はむらんの運行目的である「交通不便地域の解消」「運転免許を持たない高齢者等の移動手段の確保」のために、コミュニティバスはむらん運営推進懇談会の意見等を参考に、ルート等の検討や、バス停ベンチ設置など利便性の向上を図っていく。

	基本シート】		11	- 			- 4/\ Zh	401			人 工工厂	
1.基本項目	事業名			部署 年度	実施		□総務 ┃事業		雷兴	<u>:</u> :手法	企画政策課 進行管理	
2 鉄道利用サービス			不明		継続	州间	自治事			: 古本	<u></u> 進刊官理	
	へ向工の安胡		个明	•	** **********************************		独自)		但呂			
01				年								
02				年								
03				年								
04				年								
05							<u> </u>					
				年								
1	計画課		+ +/- /-/-		00		\ ++ +- \	3 .	市	- -	4	
基本目標 4 ひと	とと「境にやさしい	女全で快週なま	ち 他東	区分	28	7	· 共交i	<u> </u>	争未	番号	1	
2.事業の概要 事 JR中央線・JF	きちゅうち	公共 十 接	・レチル(重か	+ ria + 1	- 向 (+	ア 胆	1/2	日へ ほ	キかに	+++		
業	て月 作形のノギ	ルクリセス		I IHJ -IL I	<u> </u>	C 、 (天.	木	11、11年)	וכי אינ	1490		
内容												
根拠法令												
条例												
要綱等 3.成果指標												
成 J R 中央線・	JR青梅線	の輸送力	増強と和	便性	句上を	図りま	ます。					
果 目					_		- • •					
標												
4.活動指標							ᇝ左	上面				
Plan【計画】	平成27年度	度(現況)	平点	28年月	ŧ l		3か年記 7成29			平成		
	西多摩地域広域		司左	<u> </u>	_	<u>同左</u>	19020	1 /2	同方		00 <u>12</u>	
	議会を通じた要											
	三鷹・立川間立 促進協議会を通		同左	左			同左			左		
事業内容 事業内容	风	20/2 StH										
事業量等												
5.投入指標(成果								ウネ】)	L			
①人件費 【事務	務執行に要す							1 00/5	- 由		too左 庄	
職層∙職種	種別	平成27年原	^{夏(現況)} 算時間	人数	成28年 概算			戊29年 概算	- <u>皮</u> 時間	人数	戊30年度 概算時間	
係長職		1人	3 H			30 H			30 H	1人	30 H	
主事·主任職		0 人	0 H	1人		30 H	1人		30 H	1人	30 H	
②総事業費 事業費の内訳(当位· 壬 田\	平成27年月	变(相流)	<u> </u>	龙28年	度	<u> </u>	龙29 年	· 使	<u> </u>	艾30年度	
事業費	+ 4 .	1 10,21 +1	文(死ル) 33		<u> </u>	· 汉 33		% <u>~~</u>	- 反 33	<u>ーー</u> ル	230 <u>平度</u> 33	
人件費(係長聯			16			150			150		150	
人件費(主任・)	主事職)		0			102			102		102	
総事業費(合計)			49 0			285 0			285 0		285 0	
都支出金			0			0			0		0	
受益者負担額	i		0			0			0		0	
			^			0			0		0	
その他特定財	源		0			Λ			Λ		^	
その他特定財 一般会計繰入	源		0			0			0		0	
その他特定財 一般会計繰入 起債 一般財源(人作	源 .金		0 0 49			0 285			0 285		0 285	
その他特定財 一般会計繰入 起債 一般財源(人作 財源内訳(合計)	源 .金		0			0			0		0 285	
その他特定財 一般会計繰入 起債 一般財源(人作 財源内訳(合計) ③コスト計算	源金 生費含む)	における1	0 0 49 49	JOT-	2 LI+	0 285			285 285		0 285	
その他特定財 一般会計繰入 起債 一般財源(人作 財源内訳(合計) ③コスト計算 ア 市民	源 .金 牛費含む) 56,281 人	における1	0 0 49 49 人あたり			0 285			0 285 285 5円		0 285	
その他特定財 一般会計繰入 起債 一般財源(人作 財源内訳(合計) ③コスト計算	源 (金 牛費含む) 56,281 人 56281 人	における1 における1 出来高	0 0 49 49 人あたり			0 285		コスト	0 285 285 5 円			

平成28年度 【事後評価】 Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果) い計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか) ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。 西多摩地域広域行政圏協議会及び三鷹・立川間立体化複々線促進協議会を通じて、JR東日本に対し て要請行動を行った。 ②投入実績 決算の内訳(単位:円) 予算額(当初) | 補正·流用額 | 予算額(最終) 決算額 執行率 事業費 33.000 33.000 33.000 100.0% 7.成果結果 ①活動、投入実績から生じた成果(物) 今年度(どういう状態になったか) 前年度(今までの状況) 前年度に引き続き、協議会を通じて、JR東日本に対して、 西多摩地域広域行政圏協議会及び三鷹・ 立川間立体化複々線促進協議会を通じて、 羽村駅への待合室の設置などの要請を取りまとめた要望 JR東日本に対して要請行動を行った。 書を提出した。 ②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合 本年度:目標値 対象者(物) 本年度:実績値 Check【評価】 ◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの 8.評価 〇・・・適切なもの △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの ①事業評価(改善等、課題を発見する視点) 評価のポイント 項目の着眼点 課長評価 ・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か 施策体系に結びつくか、 当 ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか 事業の必要性はあるか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか ・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか!成果を落とさず、最少の $(\)$ 経費・労力で事務が執 法 行されているか (成 事業の目標が達成されているか 成果又は効果が表れて いるか

妥企 性 劾 率 性 有 効 |効果

	平価(今後の方向性に	ついての視点)		
【今後の	方向性】	高〔妥当性•有効性〕		今後の
		1		方向性
	B:事業の進め方の	A:計画どおりに事業を進めること、又は、		
低	改善の検討	より効果的に改善して進めることが適当	高	
←	C:事業規模·内容又	は実施主体の見直しの検討 -	→〔効率性〕	.
	D:事業の抜本的見直	〖し、休止・廃止の検討		
		\downarrow		
		低		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

JR東日本に対して、構成自治体との連携を図りながら、西多摩地域広域行政圏協議会を通じた要請行 動に取り組んでいくことで、羽村市を含む西多摩地域の発展を目指す。

	本シート】		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			-Lar	-+	4 -1			La_L
1.基本項目	5 **			部署	 		建設		(中 <i>22</i>) —		都市計画課
	業名			<u>年度</u>	実施	期間	事業		運営手	-法	進行管理
3 多摩都市モノレール	ル整備促進の	要請	昭和	56 年	継続		自治事	務直	営		
01				年							
02				年							
03				年							
04				年							
05				年							
関連課 企画政	数策課							<u> </u>			
基本目標 4 ひとと	と環境にやさしい安	そ全で快適な	まち 施策	区分	28	公	共交通	<u> </u>	事業番	号	2
2.事業の概要											
事多摩都市モノレ業	ールの構想	路線全	線の早期	具現化	につし	いて、ほ	具係機	関へ働る	きかける	ます。	
業											
容											
根拠法令											
条例 要綱等											
<u> 安 守 </u> 3.成果指標											
成多摩都市モノ	レールの構	想路線슄	≧線の早期	明具現	化を図	りまっ	す。				
果											
標											
4.活動指標							· · · - =	· · · · ·			
Plan【計画】	平成27年度	(現況)	<u> </u>	28年月	F		3か年記 ² 成29 ²		1	ज ⊨ि	
	多摩都市モノレー	ール整備促		(20+)	艾	同左	-)及233	十戊	同左	十八八	00十度
	進の要請										
事業内容											
事業量等											
5.投入指標(成果の]ネ】)			
①人件費 【事務	執行に要す							₽oo左d	노	TT -	too左由
職層•職種	刨		度(現況) 既算時間	人数	或28年 Ⅰ <i>概</i> 質	· <u>皮</u> 時間		成29年月 概算時		半月 人数	战30年度 概算時間
係長職		1人	以好时间 10 H			10 H	1人			1人	<u> </u>
主事·主任職		0人	0 H			0 H	0人			0 人	0 H
②総事業費											
事業費の内訳(単	单位:千円)	平成27年	度(現況)	平月			平原	戊29年月		平凡	<u> </u>
事業費 人件費(係長職	.)		30 51			30 50			30 50		30 50
人件費(主任・3			0			0			0		0
総事業費(合計)	L		81			80			80		80
国庫支出金			0			0			0		0
都支出金			0			0			0		0
受益者負担額 その他特定財源	百		0			0			0		0
一般会計繰入			0			0			0		0
起債			0			0			0		0
一般財源(人件	費含む)		81			80			80		80
財源内訳(合計)			81			80			80		80
③コスト計算	EC 004	ノー ナンノユ マ	4 + + +	10-	7 L 1-L	<u> </u>			al		
ア市民	56,281 人		-								
イ対象者	56281 人	における 出来高		クリコン	ヘトは、		Δ-		1円		
ウ 成果物	(J)	山米尚					<i>U)</i>	コストは			円

ワ 成果物 L ※ 対象者:

平成28年度 【事後評価】 Do【実行】 【進行管理】 6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果) い計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断 ①活動実績(Plan【計画】及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか) ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。 多摩地域都市モノレール等促進協議会総会への参加、並びに構想路線の早期実現に向けて要請活動 を実施した。

7.成果結果

②投入実績

決算の内訳(単位:円) 予算額(当初)┃補正•流用額┃ 予算額(最終) 決算額 執行率 事業費 30.000 30.000 30.000 100.0%

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況) 多摩地域都市モノレール等建設促進協議会 面などへの延伸について多摩都市モノレー ル株式会社に要望書を提出した。

今年度(どういう状態になったか) |多摩地域都市モノレール等建設促進協議会を通じて、次 を通じて、次期整備路線である、箱根ヶ崎方|期整備路線である、箱根ヶ崎方面などへの延伸について 多摩都市モノレール株式会社に要望書を提出した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

本年度:目標値 対象者(物)

本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

 \Rightarrow

〇・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、 事業の必要性はあるか	0
効率性		成果を落とさず、最少の 経費・労力で事務が執 行されているか	0
有効性	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れて いるか	0

②事業評価(今後の方向性についての視点)

<u> </u>		
【今後の方向性】 高〔妥当性·有効性〕 ↑		今後の 方向性
B:事業の進め方の A:計画どおりに事業を進めること、又は、 改善の検討 より効果的に改善して進めることが適当 ← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 → D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 〔効率性〕	Α

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

国等の動きも注視しつつ、早期実現に向け、構成自治体等との連携を図りながら、国や多摩都市モノ レール株式会社等への要請活動等を実施していく。